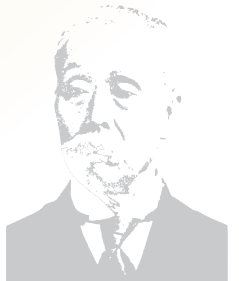


神社・仏閣 史跡

南大東島の開拓時代からの
歴史と史跡を見ることができます。



玉置半右衛門記念碑

南大東島小中学校近くにある島の開拓主である玉置半右衛門の記念碑。開拓当時の場所に玉置事務所を建て、開拓の拠点となりました。現在は松林の中にあり、木陰が訪れる人の汗を拭ってくれます。



土地所有権認定記念碑

島民の悲願であった土地所有権が昭和39年7月30日に確立しました。ふるさと文化センター向かいに建立されています。



大東神社

大正10年5月伊勢皇大神宮から御神符を受け観請、翌年に大鳥居が建立された。沖縄本島にも類を見ない、八丈島の文化が色濃く残された神社。毎年9月には奉納相撲とともに神輿や山車で境内が賑わう大東神社豊年祭りが行われます。



観音様

観音山中腹の岩窟内に観音像が安置されています。大正15年江崎龍雄の寄進によるもので、家畜の無病息災と繁栄の神として、毎年7月17日を祭日としています。



地蔵様

西港の上方、上陸記念碑の直ぐ上に数体の地蔵様があります。沖縄本島内ではみられない“地蔵様”八丈文化が垣間見れます。

さとうきび畑の中を シュガートレインが走った時代があった。

1902年、8人がかりの人力で黒糖80俵を製造したのをきっかけに、島の温暖な気候を活かしたサトウキビ栽培が開始されます。

やがて玉置商会から引き継がれた東洋製糖社が島全体を事業用地化し、製糖が島の基幹産業になりました。砂糖を移出するために製糖工場から港まで運搬列車(シュガートレイン)が走る、のどかで活気にあふれた時代を迎えました。現在、シュガートレインの走ったレール跡が数カ所で見られます。



シュガートレインの走ったレール跡



秋葉神社

西の観音山と相対する方向、秋葉山上に秋葉大明神の祠があります。大正15年11月江崎龍雄の寄進により建立されました。火災防難の神として、毎年11月16日を祭日としています。



金比羅宮

フロンティアパーク近くの小高い林の奥から西港の方角を向いて金比羅の小祠があります。開拓当初の入植者沖山権蔵が祭祀したもので、航海の安全なども祈願する神として毎年10月10日を祭日としています。



造林記念碑

開拓当初から防風林の重要性にかんがみ、植樹や防風林保護規定等を設けて樹木の愛護精神を図りました。大東神社境内の一隅に昭和4年10月建立されました。

南大東島西港旧ボイラー小屋 「国指定登録有形文化財」昭和50年3月18日指定

明治33年の第1回開拓者が上陸地点を選んで以来、南大東島の主要港として整備されてきた西港を見渡す場所に建っています。台風時に船舶を陸地引き揚げておくための施設の原動力室で、島の珊瑚石灰岩を乱積にして壁体を築造(1942年頃)。島の開拓の歴史を語る貴重なものです。



南大東村 開拓百周年記念碑

西港の南側、フロンティアパークに開拓百周年記念式典(平成12年1月23日)の日に建立されました。記念碑の両側には玉置翁と開拓者の銅像が威風堂々と建っています。

